



広隆寺の前をゆく嵐電

連載 第5回

民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか



24分で旅する京都の 1400年

京都はどの路線に乗っても歴史を感じさせる駅名が続き、それだけでも旅気分を高めてくれるが、京福電気鉄道嵐山本線・北野線（以下、通称の嵐電で統一する）ほど由緒深い名前が並ぶ路線はないだろう。

たとえば、常盤は嵯峨天皇の皇子・源常が山荘を築いた地であるし、帷子ノ辻は絶世の美女であった嵯峨天皇の皇后の帷子（単衣の着物）が舞い落ちた場所とされる（諸説あり）。

太秦広隆寺駅の「太秦」という地名は平安遷都以前にさかのぼる。京都を開拓した秦氏の根拠地であったことによるといわれ、その氏寺でもあった広隆寺の創建は推古天皇11（603）年だという。

つまり、嵐電は四条大宮―嵐山を24分、北野白梅町―帷子ノ辻を11分で走りながら、京都の1400年の歴史も駆け抜けていることになる。

実は嵐電の歴史も波乱に満ちている。

嵐電の歴史は、嵐山電車軌道が明治43（1910）年に、京都（現・四条大宮）―嵐山の間で開業したことに始まる。「嵐電」という通称はこの嵐山電車軌道の略称に由来している。8年後の大正7（1918）年、嵐山電車軌道は京都電燈に合併された。

京都電燈は明治21（1888）年に創立された京都・福井など関西から北陸をテリトリーとする電力会社で、大正3（1914）

京都府

京福電気鉄道

嵐山本線・北野線

文・渋谷申博

text by Nobuhiro SHIBUYA

北野天満宮



学問の神様として知られる菅原道真公を祀る。全国の天満宮・天神社・北野神社の総本社。開業時の北野線は北野天満宮のすぐ南側にあった北野駅を起終点駅としていたが、昭和33(1958)年に北野-白梅町(現・北野白梅町)が廃止となり、現在の路線の姿となった。

仁和寺



宇多天皇が仁和4(888)年に創建した。真言宗御室派総本山。宇多天皇が退位後に住したことから「御室」と呼ばれるようになった。もとは御所の紫宸殿であった金堂など、雅な雰囲気だたよう古寺である。

妙心寺



花園上皇の御所に建武4(1337)年に創建された禅宗寺院。臨済宗妙心寺派大本山。仏殿・法堂・大方丈など主要伽藍が重要文化財に指定されている。

嵐山



京都を代表する観光地である嵐山は、平安時代の皇族・貴族がその風光を愛した地でもあった。9世紀には嵯峨天皇の皇后が檀林寺を建てた。室町時代にはその跡地に天龍寺が創建されたが、嵐山全体がほぼその境内であった。嵐電の前身の嵐山電車軌道も嵐山観光の客の輸送を主たる目的として建設された。

車折神社



平安後期の儒学者・清原頼業公を祀る神社。頼業公は「その才、神というべし」と称えられた秀才。車折神社という変わった社名は、社頭を通り過ぎようとした牛車が壊れたことによるともいう。なお、嵐電の車折神社駅は車折神社の裏参道の入口に面している。

蚕ノ社(木鳥神社)



正しくは木嶋坐天照御魂神社。天之御中主神など5柱を祀る。京都最古の神社の一つ。蚕ノ社という俗称は境内に鎮座する蚕養神社(養蚕の神を祀る)に由来する。珍しい三柱鳥居(写真)があることでも知られる。

■嵐電(嵐山本線・北野線)路線図



京福電気鉄道株式会社

Keifuku Electric Railroad Co., Ltd.

設立 昭和17(1942)年3月
嵐山本線 四条大宮-嵐山(7.2Km)
北野線 北野白梅町-帷子ノ辻(3.8km)
<https://www.keifuku.co.jp/>

年からは福井県で鉄道事業も始めている。電力会社が鉄道事業をするというのは今の感覚では不思議に思えるが、当時は電気の安定需要を確保するためのものとして各地で行われていた。

その後、京都電燈は叡山電鉄(現在の叡山電鉄叡山本線・叡山ケーブル)の建設や福井の鉄道会社の買収を行い、嵐電でも帷子ノ辻から北野天満宮に向かう北野線を大正14(1925)年に開業(直通運転は翌年から)させるなど鉄道事業を拡大していった。

昭和17(1942)年に京都電燈から分離独立した京福電気鉄道は、京都電燈が京都と福井で行っていた鉄道事業を引き継いだ会社だった。「京福」という社名はここに由来していると言われる。

昭和60(1985)年以降は叡山本線・鞍馬線の分離(叡山電鉄への営業譲渡)など合理化が進められ、平成15(2003)年には福井地区の鉄道事業がえちぜん鉄道に譲渡された。

これによって鉄道事業では「京福」の「福」がなくなってしまうわけだが、同社グループはバス事業や不動産事業などでも福井で活躍している。

嵐電では近年、J・R・阪急・京都市営地下鉄・市営バスとのネットワーク強化「結節改善」が進められてきた。また、車体色が伝統色の京紫へと順次変更されたこともあって、古都の景色に溶け込むインスタ映えする電車として若い世代にも注目されてきている。

しぶやのぶひろ

1960年、早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究者。「カラー版 神社に秘められた日本書紀の謎」(宝島社)、『聖地鉄道めぐり』(G.B.)、『眠れなくなるほど面白い 図解 仏教』(日本文芸社)、『諸国神社 一宮・二宮・三宮』(山川出版社)ほか著書多数。